

子ども読書支援センターニュース No.171

2018. 8. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年9月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《8月のおはなし会で使った本》

『ぱっちりおはよう』 増田純子/さく 福音館書店 2017

『おばけのてんぷら』（大型絵本）せなけいこ/作・絵 ポプラ社 2004

『ばけこちゃんとうみ』（紙芝居） 荻田澄子/脚本 中谷靖彦/絵 童心社 2012

『かにこちゃん』 きしだえりこ/さく ほりうちせいいち/え くもん出版 2008

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『どろんばあ』 小野寺悦子/文 植垣歩子/絵 福音館書店 2018.6 ¥900

寝静まった家の中に、「どろんばあ ひとつ ひとつめこぞうさん」。「どろんばあ」のかげ声とともに、次々とおばけが登場。最後は宴会まで始めたが、「とおで、とうとうあさがきた」おばけたちは大慌てで帰ります。ユーモラスに描かれたおばけたちとテンポのよい文章が楽しい、数え歌の絵本。こどものとも年少版2013年8月号のハードカバー化。

『まわるよる』 tuperu tuperu/作 小学館 2018.6 ¥1400

夜寝る前、テレビに映るお寿司屋さんの様子を「うまそうだなあ」と見ていた、食いしん坊のふとしくん。ベッドに入っているとき、いつの間にかベッドがお寿司に変身し、回転寿司屋のレーンの上へ！なんと、タコに食べられそうに…！？そこで目が覚めて「たすかった～」と安心するも、パジャマやタコのぬいぐるみ、布団をよーく見てみると…？ちょっぴり怖い、ユーモラス絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『みえるとかみえないとか』 ヨシタケシンスケ/さく 伊藤亜紗/そうだん アリス館 2018.7 ¥1400

宇宙飛行士のぼくは、目が3つある人の星に到着した。その星では、ぼくは「後ろが見えない可哀そうな人」だ。「生まれつき全部目が見えない人」と話してみると、見えない人が「見る」世界と、ぼくが見る世界では、大きく違うことに気がついた。『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）の著者の協力のもと、障害の本質についてわかりやすく描いた絵本。

『せかいいちのいちご』 林木林/作 庄野ナホコ/絵 小さい書房 2018.6 ¥1800

ある冬の日、若いメスのシロクマに赤いいちごが1粒届いた。生まれて初めてのいちごの色や香りに、シロクマはうっとりして大喜び。次の冬には2粒のいちごが、その翌年の冬にはさらに多くのいちごが届いた。シロクマに届くいちごの数は年々増えるが、それとともに減っていくものもあり…。深い問いかけがこめられた美しい絵本。大人にも向く。詩人でもある作者が防府市出身。

<絵本-小学校低学年から>

『ふくろうのオカリナ』 蜂飼耳/文 竹上妙/絵 理論社 2018.6 ¥1500

最終列車も終わったある夜、ふくろうが住む野原の駅に、来るはずのない列車が到着した。降りてきたのは「朝を探しに来た」というひよこ。迷子になって泣き出すひよこのために、ふくろうは代々伝わる特別なオカリナで曲を演奏する。喜ぶひよこに嬉しくなったふくろうは…。中原中也賞受賞詩人が紡ぐ優しい言葉と、動物の生き生きとした表情が楽しい、美しい夜の絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『こちらムシムシ新聞社 カタツムリはどこにいる？』 三輪一雄/作・絵 偕成社 2018.8 ¥1500

ムシムシ新聞社に、「カタツムリについてもっと知りたい」という、女の子の読者からの手紙が届いた。テントウムシの七星記者は、早速カタツムリの取材に出かけた。すると、カタツムリを食用にしたり、そのカラを利用する生き物が多いことがわかる。生き物や土などの自然の循環をわかりやすく、ユーモラスに描いた知識絵本。見返しに「カタツムリのひみつ」あり。

<絵本-小学校高学年から>

『絵本・名人伝』 中島敦/原作 小林豊/文・絵 あすなろ書房 2018.7 ¥1400

昔、中国の都に住む若者紀昌（きしょう）は、天下一の弓の名人になるために、弓の達人の弟子となり、師の射術を会得した。更なる高みを目指す紀昌は、弓矢を使わずに鳥を射落とす「不射の射」の奥義を極める名人・甘蠅（かんよう）老師に弟子入りする。10余年後、都に戻った紀昌は「弓をとらざる名人」として名を馳せる。名人とは何か。中島敦の短編「名人伝」の絵本化。

<読み物-低学年から>

『わたしといろんなねこ』 おくはらゆめ/作・絵 あかね書房 2018.6 ¥1200

仲よしのアッキーとはケンカをしてしまうし、知りあつたばかりのさくらちゃんには逃げられてしまうので、落ち込む毎日を送っていたあや。そんなあやがマンションに帰ると、ドアにちょうど挟まるほどの大きな猫や、キーホルダーのマスコットほどの子猫が現

れるようになる。果たしてこの猫たちは、あやにどんな力を貸してくれるのか。絵本作家による初の童話。

『ヨッチャんのよわむし』 那須正幹/作 石川えりこ/絵 ポプラ社 2018.7 ¥1000

あおば保育園で一番弱虫なよっちゃん、友だちのタイキとリカと一緒に、天神山にどんぐりを拾いに行くことに。怖くて不安で、気乗りのしなかったよっちゃんだが、しぶしぶついていくと、案の定、おぼけやクマに遭遇。ついには、深い穴に落ちて這い上がれなくなってしまった。さあ、どうする3人組…。防府市在住の著者が書き下ろした幼年童話。

<読み物—中学年から>

『こだわっていこう』 村上しいこ/作 陣崎草子/絵 学研プラス 2018.7 ¥1300

そうまくんは、ぼくが知らないことをいっぱい知ってて、一緒にいるとドキドキした気持ちになれる、大好きな友だち。でも、お母さんは、そんなそうまくんと遊ばない方がいいと言った。理由は、そうまくんのこだわりが原因でぼくが怪我をしてしまったから。そうまくんとも遊びたいし、お母さんにも機嫌よくいてもらいたいし、どうすれば…。子ども達の優しく繊細な心と成長を描く。

<読み物—高学年から>

『たかが犬、なんて言わないで』 リブ・フローデ/作 木村由利子/訳 柴田文香/絵 文研出版 2018.6 ¥1400

少年ヤーコブの飼っていた犬が突然死んだ。その事実が受け入れられないヤーコブに対し、両親はその悲しみを癒すべく、新しい犬を飼うことを提案するが、ヤーコブは全く聞く耳をもたない。暫くして、ヤーコブの家に、やせこけた犬が姿を見せるようになる。この犬は、突然飼い主に死なれ、食べ物もなく、苦しんでいた犬だった。動物への愛情こまやかな作品を得意とする作者の作品。

『十年屋 時の魔法はいかがでしょう?』 廣嶋玲子/作 佐竹美保/絵 静山社 2018.7 ¥1200

ずっと大事にしていたぬいぐるみ、親友が探していたおもちゃの指輪、つきあっていた彼が、誰よりも私を綺麗に写してくれた写真のアルバム…。どうしても捨てられない、大事に保管しておきたいお品がありましたら、「十年屋」にどうぞ。十年間、大切に保管いたしますよ。さて、10年後、保管期限がきた依頼主たちのとった行動とは…。予想できない展開に心躍る6つの短編集。

<読み物—中学生から>

『ドエクル探検隊』 草山万兎/作 福音館書店 2018.6 ¥3500

1935年、動物学者を夢見る竜二と幼馴染のさゆりは、小学を卒業したこの春から丁稚や女工として働きに出る。そんな二人が動物と話せる「風おじさん」の家へ招かれていたとき、アンデス山脈のフクロウから危急を知らせる手紙が届いた。一行はすぐさま探検隊を結成し、南米ペルーへと向かう。霊長類学者河合雅樹による、ナスカ王国や巨大哺乳類絶滅の謎に迫る冒険物語。

『地図を広げて』 岩瀬成子/著 偕成社 2018.7 ¥1500

鈴が弟の圭に4年ぶりに会ったのは、2か月前のお母さんのお葬式だった。中学生の鈴とお父さんが住むマンションに、一緒に暮らすことになった圭は、小学校から帰ると一人自転車を出かけていく。離婚した母への思いを抱える鈴、新しい生活になじもうとする圭、互いを思いながら、手探りでつくる新しい家族の日々を細やかな描写で描きだす。作者は岩国市在住。

『セパ!』 虹山つるみ/作 ポプラ社 2018.7 ¥1300

サッカー—家に育った翔(かける)は、期待を担う兄への劣等感を抱え、中学ではサッカー部ではなくバレー部に入部。しかし、殻にこもりがちな翔はついに不登校に。ある日、公園で出会ったレンから「セパタクロー」というスポーツを習い夢中になる中で…。不器用なスポーツ少年の成長物語。作者は山口県出身者。第7回ポプラズッコケ文学新人賞大賞を受賞した本作品でデビュー。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『本が好きになる』 さやましょうこ/マンガ・イラスト 旺文社 2018.7 ¥850

「気軽に本にふれてみよう」「本を読むとどうなるの?」など、本が好きになるをテーマに、図書館や書店の利用のしかた、物語の楽しみ方などをマンガで紹介する。紹介された12冊は、低学年から高学年向きまでバラエティに富んでおり、おすすめポイントや、おすすめしたい対象となる人が掲載。「学校では教えてくれない大切なこと」シリーズ第22作目。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『学研新レインボー 写真でわかるはじめてことわざ・四字熟語辞典』 学研プラス 2018.7 ¥1700

ことわざ・四字熟語・慣用句・故事成語を、オールカラーの写真で解説する「見る」辞典。「芋を洗うよう」「いざれあやめかかきつばた」等、写真によって一目瞭然。それぞれの言葉の意味や使い方、言葉の元になっているお話、同じ意味や似た意味の言葉などを紹介する。目的に合わせて使い分けられる「五十音順」、「重要な言葉」、「なかまの言葉」の索引つき。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『空飛ぶ救命救急室ドクターヘリの秘密』 和氣晃司/著 彩流社 2018.7 ¥1600

医師と看護師がヘリに乗り込み、患者の所へ向かい、現場から医療機関まで搬送する間に救命医療を施すドクターヘリ。テレビドラマや映画で取り上げられ、活躍を目にする機会が増えたドクターヘリに、長年フライトドクターとして実際の救命医療に携わっている著者が、ドクターヘリに関する基礎知識や実態、クルーの仕事、クルーになる方法などを解説する1冊。

<ノンフィクション—中学生から>

『ナチスに挑戦した少年たち』 フィリップ・フーズ/作 金原瑞人/訳 小学館 2018.7 ¥1500

第二次世界大戦、戦うことなくヒトラーに屈したデンマークに怒った少年たちがレジスタンス活動を開始。些細ないたづらから、トラックを燃やしたり、銃器を盗んだり、爆弾を作ってコンテナを襲ったり。ついに逮捕された彼らは…。インタビューや手記を元に、中高生だった彼らの思いやその後の人生をたどり、知られざるデンマークの少年たちの物語を写真と共に紹介する。

<研究書>

『学校図書館で役立つレファレンス・テクニック 調べる面白さ・楽しさを伝えるために』 齊藤誠一/著 少年写真新聞社 2018.7 ¥1600

公共図書館司書から大学の司書課程教員になった著者が、学校図書館向けにレファレンスについて解説。基礎知識や覚えておきたいテクニック、レファレンスブックの活用法、記録の書き方、小中高の実践事例など、現場ですぐ役立つ内容満載。コラムや写真、演習も交え、わかりやすく学べる。『図書館教育ニュース』連載に加筆修正。「シリーズ学校図書館」の1冊。